

NO. 41 1999. 9

(株)九州地域計画研究所

もくじ

NETWORK

地域もどことつき合えばプラスになるか
 考えて行動する時代に（その2）..... 2
 2010年の風景Ⅱ
 個族化社会の中での“つながり願望”..... 3
 第58回地域ゼミ報告 長年の夢実現、北九州あいの会..... 5
 「よかネット」への御意見、近況などを皆様に
 寄せていただきました..... 7
 表紙説明..... 7

見・聞・食

九Qの会「荒尾シティモール等見学会」..... 8
 福岡証券取引所の視察..... 10
 移送ボランティアにも色々あるらしい..... 10

近況

花のジョイントコンサート..... 11
 ラーメン屋は味に特徴のあるチェーン店にこだわっている..... 13
 お客さんの声でできたメニュー..... 13
 今、お年寄りと一緒に水中歩行をしています..... 14

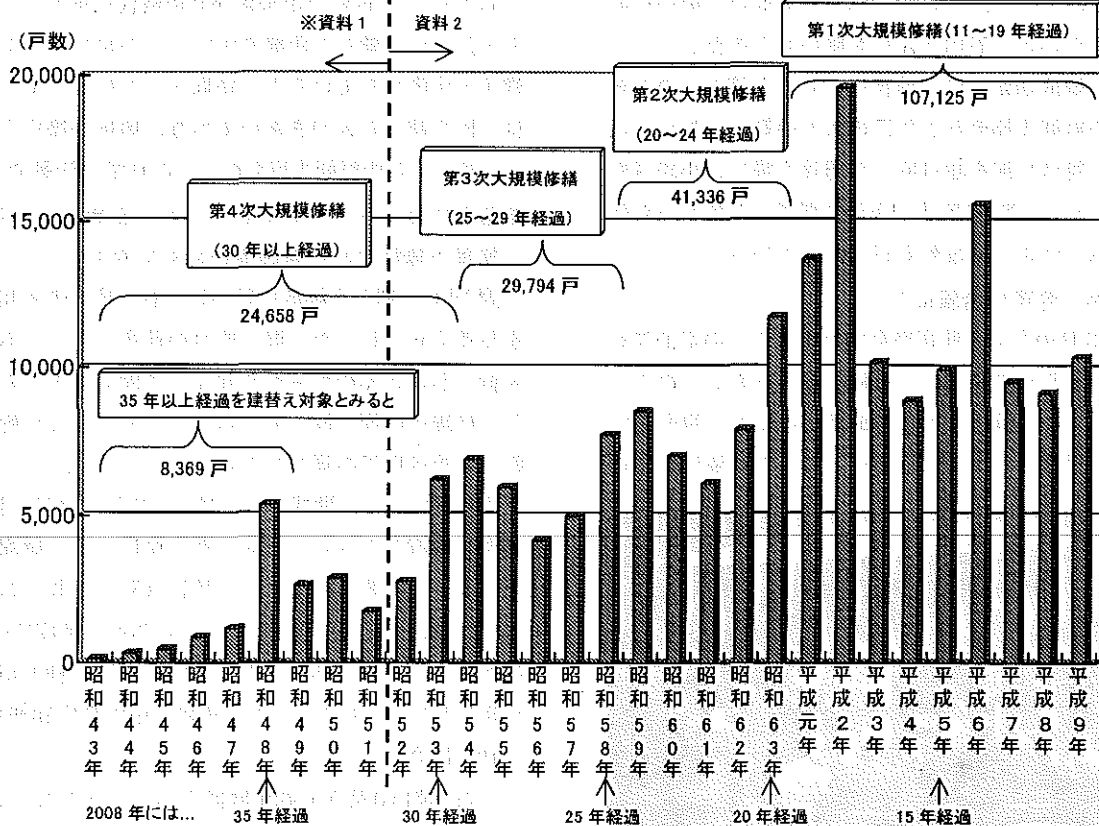
広告

伊都国じねん山荘 9月オープン
 カルチャー簡宿のマネゴトをはじめます..... 14

本・BOOKS

おとなの遠足（海鳥社）..... 15
 まちづくりの実践（岩波新書 田村 明著）..... 16

2000年～2010年の10年間は大規模修繕最盛期時代である



上のグラフは福岡県※におけるマンションの供給戸数をみたものである。マンションを建設してから、今後10年間にわたる大きな費用を要する時期を1～4次に分けてその建設戸数のストック状況をあらわしている。（詳しくは本文7頁）

※なお、昭和43年～昭和51年（資料1）は福岡都市圏（福岡市とその周辺市町村）のみの供給戸数【出典：福岡都市圏マンション市場統計】、昭和52年～平成9年（資料2）は福岡県内の分譲の共同住宅の戸数【建築統計年報】をみた。

地域もどこと付き合えばプラスになるか 考えて行動する時代に（その2）

～平戸川内の鄭成功祭に出て～

尾崎 正利

以前、本誌のNO.39で長崎県平戸市で活動を続ける中野観光協会のことを紹介した。合併前の旧村にある観光協会が、平戸と台湾を結ぶ役割を果たしている。

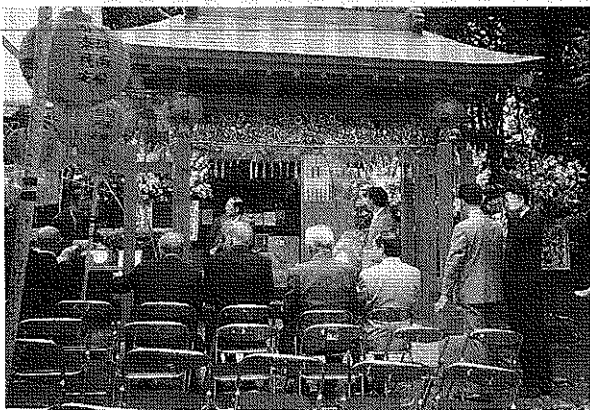
平戸は東洋が産んだ中世の英雄・鄭成功（ていせいこう）の出生地で、世界にひろがる「鄭氏宗親会」（鄭成功を慕う人々のネットワーク）など、台湾を中心にこの地に親しみをもつ人が多い。

●台湾から鄭成功を慕って遠路はるばる平戸まで
「今年は例年よりも人が多いようです」と7月上旬に電話したとき、平戸の川内郵便局長の石田康臣さんはいっていた。石田さんは中野観光協会で「鄭氏宗親会」の平戸側の中心的な役割を勤めている。毎年夏「鄭氏宗親会」のメンバーが40～50人も平戸に訪れて、鄭成功祭が開催されるのだが、今年は7月13～14日の2日間に予定されていた。そこで、私たちもぜひその中に混じってみたいと、石田さんをお願いしたのだ。

今回の鄭成功祭では、前夜祭として台湾からのお客さんと中野観光協会など平戸の人々の歓交に加え、松浦地方を舞台に海を駆け回った男達を描いた小説『怒濤のごとく』で第33回吉川英治文学賞を受賞された作家・白石一郎さんの祝賀も行われるという。

●蘭風が、今夜は台風には？

7月13日の夕方、前夜祭会場とお客さんの宿泊先を兼ねている平戸のホテル「蘭風」に入った。このホテルが面している浜辺には、鄭成功が出生した場所と伝えられる児誕石があり、さらに、ここから海岸線を辿



こちらは中野観光協会の婦人部のテント

る道路を車で5分ほど行くと、鄭成功廟がある川内集落がある。翌日はこの廟で式典が開かれる。

ホテルのロビーでは、既に台湾のお国言葉が飛び交っている。ホテルの名前は蘭風なのだが、お客さんは台湾からの人々。今日はさしずめ台風（？）といったところ。夕方の6時半から130名（台湾から60名、平戸側から70名）の参加で前夜祭は盛大に始まった。平戸市からは市長、助役、商工会議所の会頭なども出席されていたようだ。

少し下世話に考えると、毎年、遠路はるばるの来訪する50名程の人が、観光都市・平戸市に与える影響は金額としてはそれほど大きくないかもしれない。仮に宿泊と食事、買い物を合計しても平戸に実際に落ちる消費額は1人1万円以内かもしれない。

しかし、16世紀の出来事が今の時代に通じて、台湾と平戸という離れた距離を実際に人が足を運んでいる様子を実際にみていると、結局ベースになっているのは、国を超えた人づきあいであり、地域の歴史と誇りを大事にする中野観光協会の人々の日常の活動である。

●集落でコンベンションビューローをやっている。

無理と無駄のない普段着のおもてなし

翌14日、朝から鄭成功祭が行われる廟のある川内浦を見渡す丘に行った。既に昨日の前夜祭から、もてなす側とお客さんのすっかり和んだ雰囲気もあった。辺りには線香の煙が漂っている。受付でもらった鄭成功祭の次第は以下の通りである。

1. 着席 2. 開式 3. 神事（修抜、降神、拝礼、献撰、祝詞奏上など） 4. 祭主挨拶 5. 感謝状贈呈 6. 台湾賞の贈呈 7. 挨拶（平戸市長、台湾訪日団、白石一郎さんなど） 8. ご対面（鄭成功子孫・鄭萬進さん、鄭成功の弟七左衛門の子孫・横浜市在住の福住邦夫さんほか） 9. 奉納（中野自安和楽奉納） 10. 閉会

これが朝10時から約1時間半かけて行われた。

受付では、石田さんが普段勤めている川内郵便局の若い女の子が、仕事の手が空いたのか、お手伝いをしている。また会場には臨時のテントが張られ、中野観

光協会の婦人部が茶菓の用意をしている。石田さんをはじめ観光協会のメンバーは昨夜から相変わらず忙しい。さながら集落全体が手弁当でコンベンションビュローをやっているみたいだ。来ている台湾のお客さんもリラックスし、雰囲気はちょうど「お遍路さん」のような感じ。

イベント志向ではなく、新聞に出さえすればそれで満足という薄っぺらなものでもない。参加する人たちの想いだけで支えているような集まりだった。

なお余談だが、平戸を訪れた台湾のお客さんの今回の旅行スケジュールを、後日、石田さんに聞いてあらためて驚いた。

- 一日目：台湾（桃園）→那覇（空路）
- 二日目：那覇→福岡→佐賀→平戸（空路+陸路）
- 三日目：平戸→門司→瀬戸内海（陸路+海路）
- 四日目：瀬戸内海→大阪→札幌（海路+空路）
- 五日目：札幌→層雲峡（陸路）
- 六日目：層雲峡→網走→摩周湖→阿寒湖（陸路）
- 七日目：阿寒湖→千歳→東京（陸路+空路）
- 八日目：東京→台湾（空路）

海外では移動ばかり・・・と言われる日本人からみても、かなり強烈な日程の列島縦断ツアーである。台湾の人々のパワーをかいま見るような思いである。それでも旅行のタイトルは『台北市鄭氏宗親会第十八回日本平戸親善訪問団』であり、その中でもメインはやはり平戸ということになっている。

●海による結びつきを辿れば、九州は「お話の宝庫」だ
平戸をはじめとする長崎県北部から、県境を挟む佐賀県北西部までの広域な松浦地域は、今は陸上交通で延々と海沿いを通して移動する不便な地域である。



受け付けも地元郵便局から助っ人が登場

この辺りの島々に行くと土地の人に話を聞いていると、つい100~200年前の出来事でさえ、すでに地元では伝説的な記憶としてしか伝承されていないものもある。例えば、生月島の資料館でみた古式捕鯨や、土着化して今なお伝える人もいるキリスト教信仰のことなどを知ったとき、それだけで得した気分になれたのだが、後で聞くと地元では資料館が一番の資料集積ということになっていて、あくまでモノとしての展示が中心である。

平戸の中野観光協会の取り組みをみていると、海での移動が結びついてきた時代の、この地域に由来した「お話」のルーツをたどっていけば、地域間の交流をベースにした、地域で行う学会活動のひとつでも出来そうである。

今や土地固有の楽しみ、おもしろい話、おいしい食べ物、人に注目される土地の要素となっていることを考えると、平戸はいろんな要素があり、お話が出来そうだ。（おざき まさとし）

2010年の風景II

個族化社会の中での「つながり願望」

糸乗 貞喜

●「21世紀を探す旅」という東京新聞の特集に生まれた
5月に東京新聞から、電話がかかってきた。「取材をしたいがどうか」ということである。「何に関心があるのですか」と尋ねたら、「2農8サラ」と言っている「農住じねんの会」に興味があり、「21世紀を探す旅」とい

う連載記事で取り上げてみたいということであった。

「取材したからと言って、必ず新聞で取り上げるとは限らない」と言いながら、東京新聞（21世紀工房）の桐山桂一記者が見えた。もちろん私だけが取材を受けたのではなく、いつもの仲間とである。

結局、私が借りている畑で、仲間と一緒にサトイモを植えるところにまで、カメラマンを同行して取材に押しかけて来た。「えらい熱心なことやなあ」というのが私の感想であったが、畑での会話、その後の地ビールを飲みながらの話し合いや「よかネット32号（1998.3）」の個族の話などから、桐山さんは「一緒に農業を

個族時代に“人もうけ”

21世紀を 探す旅



落合恵美子さん
自民党日本共産党議員
落合恵美子さん

家族といえは、サラリーマンの夫と主婦、2人の子供……。そんな家族像が、当たり前にされてきました。行政用語では「標準家族」と呼ばれ、扶養給付などの福利や年金など、社会制度上の前提になっています。

家族の時代は終わり 個人が単位の社会に

家族崩壊、家族解体……。1970年代後半から、家庭の形骸が崩れるようになりつつありますが、当り前のはずの家族像が崩れるようになったのです。

この変化は、核家族の流行ではありません。核家族は増えておらず、単身世帯が増加しているのです。若年層でも高齢層でも1人暮らしが目立ちます。

また、育児を終えた母親の7割が家庭外で働くようになるなど、「標準」をはずれた人々が多数派になりつつあります。もはや一生を通じて「標準家族」の中で暮らすとは言えません。女子大では「晩年一人暮らしになる確率が高い」と話題をさらしています。

戸籍・初婚率は下がって高かった日本の結婚率は、近代化の過程で減少してきましたが、戦後の急激な増加を経て、増加に転じました。今後も上昇を続けるでしょう。家族関係はより機動的になると見えます。

まさに家族の時代は終わり、個人の時代へ。21世紀は、個人を単位とする社会になると考えます。個人が単位の社会で「標準家族」が前提のシステムは認められなくなり、形も年金制度も個人を基礎単位とするシステムに変わらざるを得ないのです。

農業を通じて仲間を増やす『輪族』

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」



「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」



土の栽培がたまにはいい。二つ二つ心も浮かれて作業は面白くも感じる。

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

「おれは農業が好きだ。でも、一人暮らしの生活は面白くない。仲間がほしい。農業を通じて仲間を増やしたい。」

東京新聞の「21世紀を探す旅」の特集記事。これは22回目なので、ずいぶん続いていることになる。「単身者のネットワーク」というのは少し違うかな、と思っている。

やる」だけではなしに、そのバックの個族世代にも興味をうつつしていた。

「いつから個族ということをはじめたのか」としつつく聞かれ、古いレポートを捜すはめになった。新聞の縮小コピーを見ていただけたらわかるように、記事は「個族時代に“人もうけ”」となっている。なかなかうまく纏められていた。

このときのサトイモは、やっと7月末に草にうもれた中から救出したばかりで、近辺の本職の農家の人たちのサトイモとは、別ものみたいに幼い。本当に秋に“イモ煮会”ができるかどうか心配である。

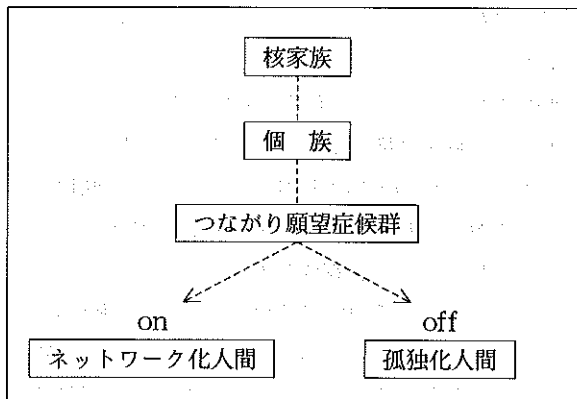
新聞記事の最後に書かれている「九州の自然文化を

東京や関西の人たちに案内し、個族の集まりやすい民宿」は、一応9月からスタートできそうである。イモ煮会の場所はできたのだが、サトイモの方が不安だ。

この後、畑の方は8月末か9月初に蕎麦を蒔く心算である。そして秋から正月には蕎麦打ち会をやれたらと思っている。

●“つながり願望時代”ということを感じている

私自身が20年余りに罹ったのが“つながり願望症候群”なのだが、近年は一層その症状が増えているように思う。私がイメージしている模式図は次頁のようなもので、ほとんどの人が個族になるのをまぬがれることができないのではないかと考えている。現代社会



はそれが標準なのだろう。そこから、どのようなネットワークを身につけることができるかがポイントではないだろうか。

先日NHKテレビで、江川紹子司会による中高生の食事についての討論会をやっていた。その個族ぶりに驚かされたが、その討論が終わって帰りがけのところ、女の子たちが5~6人集まって“サッと取り出したモノ”には驚嘆した。全員がケイタイを取り出して、お互いの番号をそれぞれが、自分のケイタイにインプットしはじめたのである。

この番組は、確実に何人かのネットワークをつくったのである。

●家具から個具へ

この中高生たちが取り出したケイタイデンワは家具ではない。

私たちが中卒の頃は、集団就職で出発する前に教師が電話のかけ方を教えたりしていた。私の家は“ど田舎”であったにもかかわらず、いくらかハイカラな土地柄でもあったので、電話や上水道は早くから付いていた。私の家も電話はあったが、それは家具でさえもなかった。物心がついた頃から電話の呼び出し役は子供の仕事で、近所の家へ電話がかかってきたときは、小走りに呼びに行った。夜の雨の中や冬の雪の中では大変な仕事でもあった。つまり1本の電話が十数戸をカバーしていたのである。私は未だに長電話というのができない。電話というものは「つながりにくくて、高いもの」だった。長電話をするとお金がかかるし、誰かがかけてきているかもしれない電話の妨害をしているような気がするのである。本当は貧乏性なだけかもしれない。

今の電話は個具であり、一人でケイタイを3本持っているという人までいるらしい。

個具化の勢はすごく、テレビはもちろん、ビデオ、ステレオ、ワープロ、パソコンは云うに及ばず、自動車までが個具になってきている。

モノばかりでなく、食べるコトまで個食化しており、コンビニエンスストアと100円ストアは、個族化社会のニーズに応えて大成功している。

2010年には一層この勢は強まるのだろうか。

(いとりのり さだよし)

第58回地域ゼミ報告

長年の夢実現 北九州あいの会

～NPO法人の思いと設立まで～

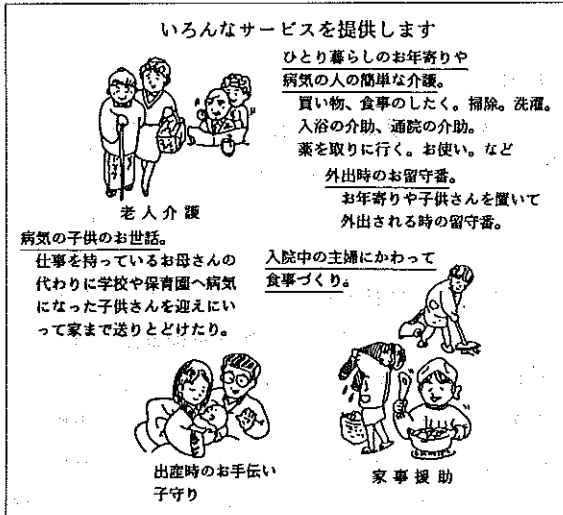
井上 順之

ボランティア団体をはじめとする民間の非営利団体が、法人格をとれる「特定非営利活動促進法(NPO法)」が昨年の12月に施行されました。最近ではNPOという言葉はよく耳にするようになりましたが、実際にはどのようなものなのか、生の声を伺うべく、今回の地域ゼミではNPOをテーマとして取り上げました。講師として、NPO法人格を今年の4月に取得された「たすけあい北九州あいの会」の代表である石井カズエさんを迎え、これまでの活動やNPO法人化までのいきさつ、今後の活動などについて話をいただきました。

●「北九州あいの会」とは

- ・両親を介護しているときに“自分は身内に世話になりたくない、なるべく助けてもらいたい”と思い、自分の死ぬときの準備をしようとの意志もあつたらしく、石井さんが平成3年に一人で始めて、今年で8年になる。
- ・あいの会の理念として、①自主・自立(他の組織に依存しない)、②自律(各スタッフがシステム全体の動きを把握し臨機応変に対応する)、③愛(家族の視点で家族のようなサービスを提供する)、④革新(サービスシステムの絶えざる見直し)、を掲げている。
- ・この会は現在、八幡西区を中心に約百人のお年寄りや障害者にホームヘルプサービスを提供している。メンバーはスタッフ8名、ボランティア約150名である。
- ・サービスメニューは介護や家事(買物・料理・洗濯・掃除)はもちろんのこと、産前産後の援助、子守、留守

番、見守り、通院介助、話し相手などを行っている。
 ・この会の運営で特徴的なことは、1時間あたり家事は800円、介護900円、時間外1200円のチケットを前もって購入してもらい、サービス時間にに応じてチケットをもらう仕組みになっている。当初は時間預託としていたが、将来的なお金の保証がないため、チケット制に切り替えた。



あいの会のサービス内容

● NPO 取得について

- ・NPO 取得においては県内の同じような活動グループの4団体と一緒にNPOの勉強会を行い、同時にNPO法人格を取得ができたことが幸せなことであり、全国でも福岡県のみのものである。
- ・銀行口座をはじめ、あいの会の財産がすべて個人名義になっているため、病気や死亡、また泥棒に入られた時などを考えるとすごく不安である。法人化することによって、相続税を気にすることもないし、事故が起きてもシステムが残り、引き続きサービス提供が可能である。そういったことで利用者もきちんとした組織として認めてくれる。
- ・今年の5月11日、福岡法務局八幡出張所に登記申請をして、この日で法人になることができた。その際、お金がいてと思って用意していたが、申請にお金は必要なかった。

● “心のケア” をモットーに柔軟な活動

- ・[事務局 (スタッフ)] - [サービス供給者 (ワーカー)] - [サービス利用者] という縦の関係を確実に保っている。そのため、サービス内容や時間の変更を供給者と利用者だけでは行わず、スタッフと密

接に連絡を取り合う。ダブルブッキングなどの事故防止のためである。

- ・利用者はプライバシー侵害に敏感である。そのため、ワーカー同士の横の関係は持たせないことによって、不必要な情報の流出と混乱を防ぐ。また、利用者と異なる地区に居住するワーカーを行かせることによって、隣近所への情報流失を防ぐ。
 - ・もしワーカーと利用者が相性が合わない場合でも、“もうひと押しがんばってみよう”とワーカーに声をかける。簡単に別のワーカーを行かせる信頼感がなくなってしまうためである。
 - ・サービス利用者は自分の考えを受け入れて欲しいと思っている人が多い。そのためワーカーは、相手をすべて受け入れ、ボランティアをさせてもらっているという姿勢で接する。
 - ・企業は“介護”だけを行っている。あいの会では“サービス”と“心のケア”をモットーに活動を行っている。
 - ・“誰かに頼まれてやっている”といった意識は全くなく、“自分のために”という気持ちで福祉に取り組んでいる。
 - ・プロではできないことを私たちがやり、家族のように面倒を見る。
 - ・ボランティアをやっているといい人に出会う。
 - ・リタイヤした元気なおじいちゃんにも、送迎のためのドライバーとして働いてもらい、働く場所を提供している。
- 今後について
- ・助け合いや福祉の活動は「地域」でしかできない。もっと北九州市や福岡県で同じような団体ができて欲しい。
 - ・もし、解散した場合、残った財産は行政に渡すのではなく、地域に譲りたい。“財産”というのはお金だけではなくシステムや仕組みのことである。“死に方が生き方である”石井さんがおっしゃった話の中で、私が一番印象的だった言葉である。これの意味は“人の世話になりながら死ぬのならそういう生き方になる”ということである。私は死までまだまだ長い(と思う)。よい“死に方”をするための準備をそろそろ始めようと思う。(いのうえ じゅんじ)

「よかネット」への御意見、近況などを
皆様に寄せていただきました。

前号に引き続き、NO.39号に同封していたハガキで、本誌に対する様々な御意見、読者の皆様の近況が寄せられました。ここで紹介いたします。

- 新鮮な情報をありがとうございます。業務の参考にさせてもらっています。(富山 遠藤聡さん)
- 情報の流通が東京からの発信に偏っているため、こちらにいと、郷里・福岡のリアルな情報はなかなか入手できないものです。「よかネット」は九州の息づかいが聞こえるような記事が多く楽しみです。

(東京 山本正典さん)

- 世の中は不況と言われて久しいですが、美容業界では“どこ吹く風”。「美しくなりたい女心」は時代がどこへ流れてゆこうと決して変わらないようです。美しい女性がいっぱい現れたら、世の男性の心も少しは明るくなるのでしょうか?(福岡 松丸順子さん)
- 九州よりの南風の便りのように感じられて、肌身心地良く、じんわりと体全体に抜がっていくようです。糸乗さんに一度見に来ていただいたギンナン植樹活動も8年目に入りました。(滋賀 村田三郎さん)
- 毎号ユニークな企画で楽しみにしています。九州も福岡のみが元気だといわれていますが、今後どうな

- るか関心があります。(神奈川 岡崎泰造さん)
- 現実を見て歩く、調べる感じる、人の話を聞くというところを、ますます大切に発信を続けて下さい。

(東京 森下慶子さん)

- 2020年頃の日本の人口構成を考えると、流行っている「町づくり」「町生かし」がこの後も続くのかな?とと思っているこの頃です。(兵庫 上谷重男さん)
- 映画「プラス!」にほうけています。日本にもたくさんのヨークシャーがあり、たくさんのヤマの男がおり……。「プラス!」をつくった人間に希望があります。(兵庫 安治川敏明さん)
- 介護保険導入を前にして、その体制づくりに四苦八苦。人も金も増やせない中での組織編成に苦闘。今後とも「よかネット」でホットな話題を提供して下さい。(福岡 丸山野美次さん)

- 去る2月に「祖父と玄洋社初代社長。平岡浩太郎との関係について」の論文をまとめ、福岡市の「玄洋社記念館」発行の機関誌に発表することができました。

(福岡 平川硬一さん)

- 「よかネット」は自己主張がはっきりして、サラリーマン的な「まあまあ」がないので楽しみです。

(愛知 つばたしゅういちさん)

- 「よかネット」のフィールドワークによる報告やエッセーにいつも興味をそそられています。

(福岡 丸山孝一さん)

以上、いろいろなご意見をありがとうございます。

表紙説明

2000年～2010年の10年間は
大規模修繕最盛期時代である

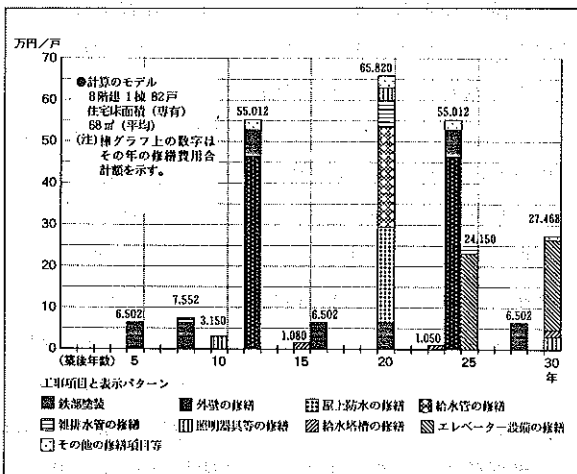
山田 龍雄

小生は、平成元年着工のマンションに居住して早や11年目を迎えようとしている。福岡市住宅供給公社の物件であるため、入居者による管理組合を組織し、自主運営を行っているが、2年前頃から大規模修繕の話が持ち上がり、2年後ぐらいを目処に実施の予定である。我がマンションも大規模修繕にかかることもあって、いったい福岡県でどの程度のマンション戸数が大規模修繕にかかるのかが気になり、データとしてまとめて

みたものである。

ここでの大規模修繕とは「マンション修繕積立金算出マニュアル(昭和60年財団法人マンション管理センター作成)」によるモデルマンションで大きく費用がかかる時期のことを示しており、棒グラフで背の高いところを概ね第1～第4次と命名したものである。例えば12年目に第1次の大規模修繕の時期に入る訳であるが、ここでは第2次までの12～19年までの期間を第1次としている。

そこで、第2次ベビーブーム世代が持ち家層となる最後の住宅需要拡大期になるといわれている2010年頃には、表紙に掲載しているように第1次大規模修繕で約100,000戸、第2次で約40,000戸、第3次で約30,000戸、第4次で約25,000戸となる。特に、平成元年～2



長期修繕計画の例 (出典: マンション修繕積立金算出マニュアル)

年頃のバブル時代に供給されたマンションが、ここ10年間で第1次修繕時期となることから最も戸数が多い。また、概ねRC造で建替え対象時期となる35年以上を経過するものは、福岡都市圏で約8,000戸以上となるのである。建替えには権利者の4/5以上の賛成が必要であることから、全国でも容積が余っているところを保留床として売却し、自己負担を軽減しているところの成功事例が主流である。今後、福岡県内でマンションの建て替え、大規模修繕の需要は増えていくものと思われるが、コーディネートする人は少ないように感じられる。(やまだ たつお)

九Qの会「荒尾シティモール等見学会」
九州で一番元気の良いまち？

澤谷 真紀子

熊本県の荒尾市は福岡県の大牟田市と隣接しており、三池炭坑のまちとして栄えていた。しかし、石炭産業の衰退により昭和30年代以降、住民の転出が多くなり、社宅(炭坑住宅)にも市内に空き家が目立つようになっていた。ところが最近、このような炭坑社宅街だったまちが元気になったという話を聞き、7月の暑い中、荒尾市のまちづくりについての話を「九Qの会」(社団法人再開発コーディネーター協会の九州の会、昨・今年度事務局をしている)で聞くこととした。

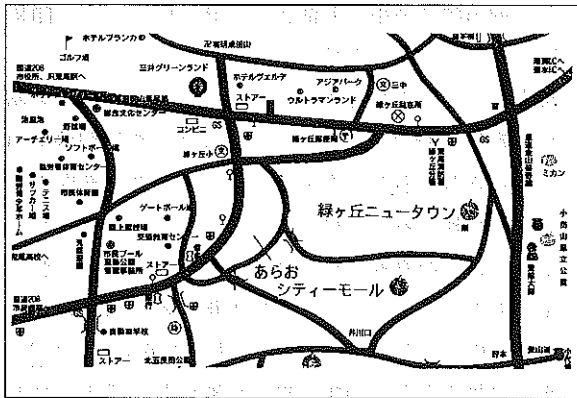
当日は、荒尾市商工観光課の古林哲也さんと企画調整課の浅田敏彦さん、特定商業集積事業による大規模模(ニコニコドー、ホームセンターサンコー、鶴屋百貨店、個店からなる)荒尾にぎわいの核である大規模

商業施設「あらおシティモール」の管理会社(2社あるがその内の1社)「荒尾商業開発株式会社」の代表取締役社長・若杉豊韶さんのお話をうかがった。

●大牟田と荒尾で人口移動があった

まず、荒尾市のこれまでの経緯と取り組みについて次のような説明がなされた。

- ・石炭産業ピーク時には市内に約5,000戸の社宅(炭坑住宅)があり、本地域に集中していた。
- ・石炭産業の衰退により、従業者とその家族の市外への転出が増え、本地域の社宅にも空き家が目立ち始めていった。
- ・1966年に大規模テーマパーク「三井グリーンランド」がオープンし、にぎわいの起爆剤となった。
- ・それ以降、三井グリーンランド周辺での開発計画が出始める。
- ・1986年には三井物産と市が進めていた九州アジアランド構想より、市がアジアの文化をテーマとした「アジアパーク」を計画。
- ・1987年頃から、当時「住居専用地域」であったこの社宅街一帯を「住居地域」に換え、テーマパークづくりの下地をつくった。
- ・その後、民間資本によるテーマパーク、ホテル、温泉、地ビール園等の建設が始まる。
- ・一方で、市の商業の核づくりについて、1989年頃より検討がなされる。
- ・1992年には「荒尾市特定商業集積整備基本構想作成調査委員会」を設置し、翌1993年には「あらおシティモール」の事業主体となる第三セクターの「荒尾商業開発株式会社」、「荒尾シティプラン株式会社」を設立。
- ・あらおシティモール計画地の東側一帯を市の土地開発公社が造成し、1996年より宅地分譲を開始する。
- ・現在(平成11年現在)376区画中4分の3が売れている。平均価格は坪14万円から。
- ・半数は荒尾市内からの転入であるが、残りは大牟田市から(一度荒尾市に住所変更している)の転入である。荒尾と大牟田は昔から住宅を求めて2市内での移動があったそうだ。
- ・平成9年に3セク2社で運営する「あらおシティモール」がオープンする。
- ・平成10年には資本金9千万の内、熊本県が1000万円、荒尾市が500万円出資した3セク(㈱有明浪漫



緑ヶ丘ニュータウンと隣接するあらおシティモール

麦酒)が運営する「アサヒビール園荒尾」がオープンする。

・現在、民間資本のレジャー施設や3セクが運営するショッピングセンター、ビール園、市の土地開発公社が供給する住宅で賑わっている。

●あらおシティモールは3セク2社で運営

次に、あらおシティモールについて次のようなことを聞いた。

- ・あらおシティモールは特定商業集積整備事業を導入し、平成9年4月(三井炭坑が3/31に閉山している)にオープンした。約9haの敷地に、鉄筋コンクリート造2階建て(一部3階)店舗面積約3ha・店舗数67の建物、駐車場(2000台)、駐輪場(600台)等があり、総事業費は約77億円。
- ・施設の整備及び運営は第3セクター2社による。
- ・2社の内の1社、「荒尾商業開発株式会社」は、地元荒尾市内の商店街が中心となっている。資本金が4億8千万円で、その内、市・中小企業事業団が1億8千万円ずつ、地元事業者が1億2千万円の出資を行っている。
- ・「荒尾シティプラン」は、キーテナントである熊本の大手2社が中心となっている。資本金13億5千万円の内、(株)ニココ堂が6億円、荒尾市が3億2千万円、(株)ホームセンターサンコーが3億円、(株)鶴屋百貨店が9千万円、荒尾商業開発(株)が3千万円の出資を行っている。
- ・駐車場や駐輪場、多目的ホール等のコミュニティ施設整備は荒尾シティプランが行った。
- ・基盤部分の持分比率は、荒尾市商業開発株式会社が20%、荒尾シティプランが80%。
- ・売上高は荒尾市商業開発株式会社が4分の1を占める

ため、促販費等は売上高にあわせ、荒尾市商業開発株式会社が25%、荒尾シティプランが75%ずつ出し合っている。

・昨年度は年間520万人の買い物客で、売上高は前年比の103%、今年度は400万円の黒字を見込んでいる。

・周辺(周辺の住宅街)住民だけではなく、荒尾市内、大牟田市内からの客も多い。

九Qの会当日は夏休み中ということもあり、小・中学生や高校生ぐらいの若者が多くみられたが、一番目に付いたのは、いかにも「定年退職し、気ままに過ごしております」といった感じの男性が奥さんらしき人と一緒にきている姿であった。

帰りかけ、古林さんに「どうぞ温泉に入ってビールでも飲んで楽しんでください」と送り出され、弥生乃湯に行ってみた。地元のパチンコ屋が経営しているだけに、客が喜ぶことを常に仕掛けている。円形風呂から運動浴、低周波浴、アルファイオンスチームサウナ、セラミック釜風呂など15種類もあり、床や化粧台も清潔に保たれていた。周辺の住民だと思われるが、お風呂道具を入れたプラスチックの箱を持つ人が多く、金曜日の16:00頃だというのに、800程の下駄箱の1/3は埋まっていた。入り口付近には露店も出ていたので、ここにはさぞかし人が集まるのだろうと思った。ちなみに、昨年度の入浴者数は約60万人(入浴料450円)とのことだ。その後地ビールを飲んで気持ちよく事務所に帰ったことは言うまでもない。

(さわたに まきこ)

三井グリーンランドから地ビール工場までの歩み

- ・1966年～: 三井グリーンランド(1997年で動員客142万人/年)
三井グリーンランドゴルフコース
三井グリーンランドホテルプランカ
- ・1986年: アジアの文化に触れる「アジアパーク」を計画。現在、ゲームセンターに転換している
- ・1994年: 温泉リゾートホテル「ホテル・ヴェルデ」
- ・1996年～: 376区画、14万円台/坪(80坪台)の住宅団地「緑ヶ丘ニューアルタウン」分譲開始、現在7割方売れている
- ・1996年: 円谷プロのプッシュで実現した「ウルトラマランド」
- ・1997年: 大規模ショッピングセンター「あらおシティモール」
- ・1998年: 天然温泉「弥生乃湯」
- ・1998年: 地ビールと工場直送ビールが楽しめる「アサヒビール園荒尾」

福岡証券取引所の視察

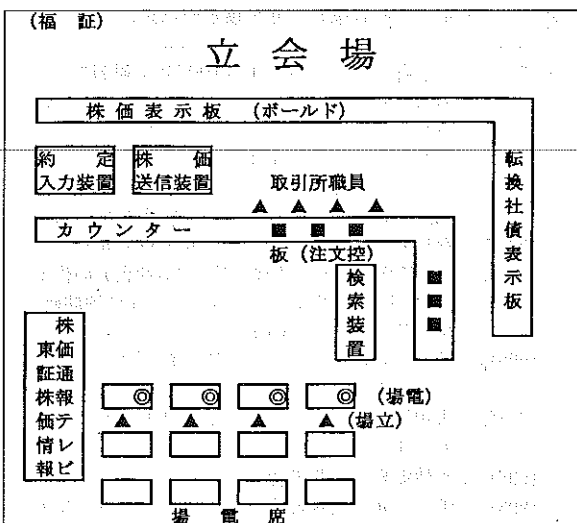
山田 龍雄

私は、ある人の薦めと人的ネットワークを拡げるため昨年の12月に(社)福岡県中小企業経営者協会(略して中経協)という団体に加盟した。この団体は、今年で創立25年になり、中小企業者の横のつながりの強化や経営者同士の情報交換の場づくりなど非常に多彩な活動をしている団体であるが、去る7月はじめに、この中経協が主催する6つの研究会の中のひとつである地域企業研究会の「第1回研究会～福岡証券取引所の視察」に好奇心だけで参加させていただいた。

この会では西鉄ソラリアホテルでの朝7:00からの朝食会のあと、福岡証券取引所の専務理事である高島さんの講話があり、このあと証券取引所へと移動し、朝9:00からの実際の取引状況の見学をさせていただいた。朝早い会であったが、30名近い参加者があった。

小生は株取引など全く縁がないため、初めて福岡証券取引所が天神の福岡銀行本店の横のビル内にあることを知るとともに、実際の取引所は下図に示すように意外と狭いところで、概ね40坪程度ではないかと思った。ちなみに福岡証券取引所に上場している会社は267社でうち97社が九州・山口県内の企業であり、さらに地場企業のうち35社が福岡証券取引所単独上場の会社であるとのこと。(平成11年7月1日現在)

当日は、残念ながら取引条件数も少なく、静かな取引所風景であった。



福岡証券取引所の間取り

あと朝の講話の中でお聞きした話の中で、少し印象に残ったこと下記にあげる。

- ・現在、アメリカの「ナスダック(アメリカ証券業協会が管理、運営するインターネット上での取引機関)」が注目されており、今ではニューヨーク証券取引所に次ぐ規模であるとのこと、ここではインターネット上で巨万の富を手に入れることができるといわれているが、このナスダックに上場するための審査は極めて厳しいというデメリットもあるらしい。また、東京の場立取引所の電子取引に変わり、将来、日本では場立の取引所は消えていくであろう。
- ・アメリカでは会社を退職した経営者がベンチャー企業を応援する「エンゼル組織」というものがあり、この組織ではストック・オプション制度(あらかじめ決められた価格(権利行使価値)で一定期間後に自社株を購入できる権利)を活用しており、そのベンチャー企業が成功すれば、権利(投資した価格)の半分を受け取ることができるとのこと。

小生にとっては今まで少々知らない世界であり、理解できないこともあったが、有意義な朝の3時間であった。(やまだ たつお)

移送ボランティアにも色々あるらしい

澤谷 真紀子

阪神・淡路大震災以後、ボランティアという言葉が一般化しており、平成12年からの介護保険施行もあって、市町村のボランティア育成・活動に力を入れたいと思う気持ちも切実であるように思える。

現在、福岡市近郊の町で介護保険事業計画、老人保健福祉計画のお手伝いをさせていただいているが、やはり、高齢者サービスを担うボランティアの育成ということが柱の1つとなっている。

ボランティアも多岐にわたるが、その中の移送サービスについて、移送ボランティアを行っている、福岡県宗像市の話聞きに行った。ここでは次のような取り組みを行っている。

- ・移送ボランティアの目的が車椅子の方の社会参加を支えることのため、対象者は車椅子を利用している方で、車はリフト付きの車を市の社会福祉協議会が提供し、運転は登録ボランティアで行っている。
- ・昨年8月より登録を開始し、34名が登録している。登

録者は会社員、主婦、退職者、高齢者など多岐にわたるが、実働者は半数くらいで、退職者の男性が多い。

- ・通院のための利用がほとんどで、1か月に6件（人の行き帰り）程度の要請がある。
- ・ボランティアの都合の良い日を社協がまとめ、利用者より要請があればマッチングを行う仕組みとなっている。
- ・ボランティアには運営協力費として市内移動には500円（会員300円）、市外には500円（会員300円）プラスガソリン代が支給される。
- ・利用者は原則、会員制としているため、年会費1,000円と1回につき300円（会員価格）を支払う。
- ・利用者の中にはタクシーのような感覚の人もある。
- ・ボランティアの横のつながりが無いため、自分の活動がどう評価されているのかわかりにくく、やりがいを持ちにくい状況である。
- ・今後は、移送ボランティアのグループがボランティアと会員とのマッチングや、スケジュール調整なども自主的に行うように仕掛けていきたい。

移送ボランティアには、宗像市のように車椅子の利用者を対象としているものや、北九州あいの会（5頁参照）のように介護サービスを行うヘルパーの送り迎えをするためのもの、ディサービスや機能訓練などの送り迎えをするためのもの等がある。

福岡市近郊の市町村は公共交通インフラの縦線は充実しつつあるが、横の線は自助努力といった状況にある。そのため、高齢者は車を持っていないと（誰か運んでくれる人がいないと）、通院や健康予防の教室にも出かけるのがおっくうになり活動範囲が狭められる。高齢者の社会参加をはかるためにも、自宅から病院や役場、最寄りの駅などへの移動を助ける送迎ボランティアができないだろうか。実際、上手に（システム、管理・運営等）行っているところがあればお教え下さい。

（さわたに まきこ）

所 員 近 況

花のジョイントコンサート

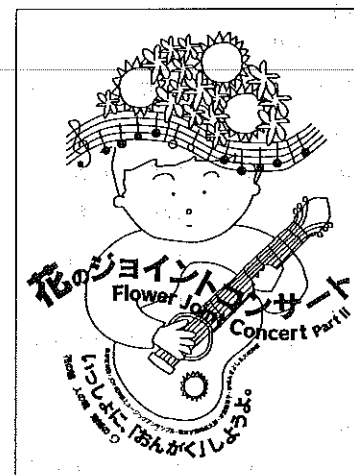
最近、障害者関連のイベントづいてる感もあるが、グラウンドワーク福岡では「花のジョイントコンサート」と題し、障害者を中心とする音楽グループを集めたコンサートを去る7月30日に行った。同様のコンサートを行うのは一昨年に続いて2回目である。

今回の出演者は健康荘楽団、JOY倶楽部ミュージックアンサンブル、穂波学園・薫風太鼓、本田路津子さん、岩切みきよし&大塚輝信さんの5組。出演者は総勢100名弱（健康荘約40名、JOY倶楽部約20名、薫風太鼓約25名）、ボランティアもグラウンドワークのスタッフと当日の学生ボランティア合わせて約100名が集まった。観客はパンフレットの残り数からすると300名程度来ていたようだ。出演者もボランティアも自分の出番以外は客席にさくら（？）として座っていたので、会場は500人位になっていた。

「花の」コンサートというのは、プランターを舞台やロビーに飾ったからで、粕屋高校で育ててもらった花をプランター50個分頂いた。これはコンサート終了後に安く販売させていただいた。

○会場も進行も障害者に配慮

聴覚障害者でもコンサートが楽しめるよう、要約筆記と手話通訳のボランティアにも来ていただいた。要約筆記はこの場合、舞台袖でOHPを使って歌詞や話の内容を書いていく。歌詞などは最初から分かっているので事前に書いておいて、本番は歌に合わせて差し棒で追っていくのである。これで、今何を話しているか



コンサートのポスター

が分かるし、手話が分からない人にも理解できる。

最近造られたホール等では、車いす用の席（スペース）が設けられているが、最後列に少しだけという場合が多い。今回は障害者の来場が多いと考えられたため、客席の最前列の椅子を取り外し、車いす用のスペースとした。実際に最前列で見てくれた車いすの人は数名だったが、それでも良かったと思う。

○当日のボランティアの使い方の難しさ

学生にもボランティアを呼びかけ、九州大学医療技術短大、福岡大学、中村学園大学などから約20人が手伝いに来てくれた。しかし、正直なところ、当日来てくれたボランティアを使うのは難しいな、というのが感想である。

動いてくれないという意味ではない。十分にボランティアとして動いてもらうような準備がなかったように思うのである。せっかく手伝いに来てくれた人が手持ち無沙汰にしているのを見ると、スタッフとしては責任を感じる。できれば、ちゃんと手伝って役に立ちました、と思って帰ってもらいたい。

普段の仕事の時もそうだが、指令を出す人が忙しそうにして、手足となって動く人が暇そうにしてる、というのはあまりいい状態ではないと思う。指令を出す人は、周りをきりきり舞いさせてでも余裕を作る方がよい。ボランティアで来てるのだから自分で仕事を探すべきだ、と思わなくもないが、初めてきて事情がつかめてない人に自分で探せというのも酷かも知れない。

今回の場合は障害者の来場が多く、もしものときのために人を配置していた面もあったため、忙しくなかったのは何もなく良かったともいえるのだが。

○要約筆記の思わぬ効果

司会は宮田西中1年生の子供たち25人（グラウンドワークジュニア）が幕間のたびに5人ずつ登場した。リハーサルの時に「学芸会みたいな雰囲気になっちゃうよ」と音響担当のプロの方に言われ、緊張しながらの司会ではあったが手作りらしさを出しながら大役を果たした。司会には子供たち自身で考えた台本があったのだが、せっかく覚えたセリフが、客席の人には聴覚障害者のための要約筆記で先に読めてしまう（台本を事前にOHPに書いておいたものを出したから）というハプニングもあった。子供たちの司会を聞くと言うより、正しくいえてるかどうかを見てしまう人の方が多

かったのではないだろうか。

最近のテレビのバラエティー番組などでやたら字幕を出すものがある。長いセリフをそのまま文字にするものには芸を感じないが、わざわざ字幕を出すことで面白くなっている部分は確かにある。少し意味は違うものの、要約筆記が舞台袖にあると、それが不必要な人でも見てしまっ、思わぬ視覚効果となっているようなのである。

○楽屋で驚くべき能力を見た

本番前、司会の子もたちと一緒に楽屋へ出演者に挨拶に行った。健康荘の楽屋では、ちょうどリハーサル中だったのでしばらく見ていることにした。健康荘のメインの楽器はスティールドラムである。これはドラム缶の丸い底の部分をつたいて、1枚のドラムの中にいろんな音階が出る場所を作ったもので、ポワンという高い音が出るジャマイカの楽器である。1枚の中でメロディーも弾け、形はドラムだが鉄琴みたいなものと思ってもいいかも知れない。リハーサルで「上を向いて歩こう」の曲が終わった後、2つのスティールドラムをひとり弾いていた人が、左右のドラムが反対だったと言って入れ替えだした。2つのドラムは当然別の音階が入っている。練習中、彼は左右反対でも正しいメロディーで弾いていたのである。

健康荘は知恵遅れの人たちを中心とするグループで、集中力を持続させたり周りの人と歩調を合わせたりするのが得意ではない人も多い。しかし、時にすごい集中力と技術を見せることがある。この「ドラム位置反対事件」（と勝手に命名）を見て、ピアノが半音ずれて調律されていたのを本番前に知って、それでも半音ずらして正しい音階で弾いたモーツァルトの逸話を思い出した。



舞台袖の要約筆記と司会の子もたち

○障害者はチャレンジャー

障害者のことを、むしろチャレンジャーと呼ぶべきだという人がいた。自分へのチャレンジ、社会へのチャレンジを続けている人たちだという考えで、それには頷ける。

少し別の見方をすると、これは親戚の叔父さんからヒントをもらったものだが、ダウン症などは人類の進化への挑戦者であると考えられることもできる。ダウン症は通常より遺伝子が1組多い、ということは新しい人種へ移行しようとしている人たちなのではないか。この話はやり始めると長くなるので省略するが、障害者といわれる人に対するひとつの理解の仕方として聞いて頂ければいいと思っている。専門家からみれば笑われるような内容だと思うので。

これからも、いろんな人がチャレンジしていける場を提供していければいいな、と思う。

(伊藤 聡)

■ ラーメン屋は味に特徴のあるチェーン店にこだわっている

私は豚骨ラーメンが大好きである。

1日3食ラーメンでも平気である。仕事で新しい市町村が担当になると、そこでしか食べることのできないものにはもちろん興味があるが、その地域のラーメン屋にも興味があり、小さな市町村ではすべてのラーメン屋を回ってみたいくなる。

初めてのラーメン屋で頼むメニューは私の場合、必ずといっていいほどシンプルに「ラーメン」で、コシヨーや紅生姜なども入れずに味を楽しむことを決めている。その店の麺とスープの特徴がよく分かるからである。いくつかラーメンの地域特性らしきものも感じたものがあった。ある地域ではどのラーメン屋に入ってもスープがインスタントラーメンの「豚骨味スープ」のおいと味だった。これは私の推測だがこのような地域では豚骨スープの素である「豚骨」が手に入りにくい、もしくはコスト高になるため業務用の「スープの素」を使っているのかもしれない。

一概には言えないが、今まで豚骨ラーメンを食べてきて感じたことは、1店舗だけでやっているラーメン屋よりもラーメンに特徴があるチェーン店の方が何度も行きたくなるということである。

チェーン店のラーメンは、「I」のように辛みそのタレが入って辛くてこってりしているもの、「Ki」のように

豚骨スープにミルクとニンニクを入れ、新開発のスープに仕上げたもの、「N」や「Y」のように濃い味付けなど、何かしら特徴的でうまいラーメンが研究されている。しかし、味にはそれほど特徴が無くともお得なセットメニューが豊富にそろっているというのも私にとっては魅力的で、つつい何度も足を運んでしまう。チェーン店になっていてもラーメンにあまり特徴がなく、お得なセットメニューがないような「Ku」のようなところはあまり行こうとは思わない。

かつて一見さんおことわりのIというラーメン屋さん福岡市郊外にあった。やがて、その味が口コミで広がり福岡市に2号店が開店した。その店は1号店とは違って、誰でも入ることができる。しばらくはそのI軒だけだったが、ここ数年でチェーン展開し、あちこちにできた。また、観光ガイドなどで全国的なPR活動しているのか、観光客でいっぱいである。

その店は一人一人のスペースが囲われていて他の客や店員と顔を合わせることなく注文する独特な店内である。

仮に、店がユニークなだけで、味に特徴がないなら私の場合、2度目から敢えて行こうとは思わないが、そのIのラーメンは独特なタレとこってりスープが特徴で麺は極細麺と私が好きなラーメンの要素を凝縮したラーメンである。私の知っている限り、Iと同じような味のラーメンは他には無いと思う。この店の場合、元々1店舗でやっていたが、「特徴的でうまい」というチェーン展開できるという条件を備えていたことになる。自分が客の立場になっていっていると、食べたラーメンが特徴のない「どこかで食べられるような味」「すぐに忘れてしまいそうな味」だと、敢えて2回目からは行こうとは思わない。

まだまだ行ったことのないラーメン屋は多い。そこでしか食べられないような独特な豚骨ラーメンを探し続けて、明日もまたラーメンを食べている!?かも。

(小田 好一)

■ お客さんの声でできたメニュー

先日、南区の「すえ勝」という居酒屋で、ライオンとワニとカエルとダチョウを食べました。

以前は普通の居酒屋だったのですが、久しぶりに行ってみると、動物園で見るような動物がメニューになっていました。もともとは、カエルをメニューに加えたのが始まりで、お客さんから「他にかわったものが

食べたい」という声が上がリ、メニューが増えていったそうです。下手物は嫌いなのですが、かわったもの好きなので、チャレンジしてみました。

まずは、カエルが唐揚げで出てきました。姿揚げだったら、気持ち悪くて食べられないと思ってたのですが、パーツで出てきたので、食べられました。ふとももから、ふくらはぎの部分でした。味は、筋肉質の鶏肉です。唐揚げなのに、油分が少ないので身が引き締まっていて、噛んだら、きしむような感じがしました。

次は、ライオンとワニが串焼きで出てきました。ライオンはアフリカ産だそうで、見た目はばさばさした牛なのだけど、肉質は、意外に柔らかいです。味は獣臭く、これは結構濃い味です。ワニの見た目は四つ身で、味は、ひと口目はほとんど味がしなかったのですが、ふた口目が「爬虫類を食べたらきつとこんな味」という味で、場所によってたまに強烈なのがあるようですが、当たったのは私だけで、友人は普通に食べていました。

ダチョウは刺身で、味は、馬刺のさっぱり風です。これは、なんの抵抗もなくいただきました。

ちなみに4種のうちで、一番人気は、カエルだそうです。誤解してほしくないのは、「すえ勝」さんは、下手物屋ではありません。居酒屋お馴染みのメニューもあります。というか、そっちがメインです。

(佐伯 明日香)

■今、お年寄りと一緒に水中歩行をしています

私は今年の3月に疲れと運動不足のためか、歩くのがつらい程に腰を痛め、一時期針灸に通っていた。その先生が少し直りかけた頃に「腰のためには、少しプールでも行って歩行運動などから初めてはどうか」といわれた。このことがきっかけで6月頃から近くにある東市民プールに行くようになった。

市民プールでは歩行者用、遊泳用、水泳用と3コースに分かれており、私が午前9時半頃プールに行くと2人並んで世間話をしながら、あるいは1人でモクモクと水中歩行を行っているお年寄りがだいたい7~8名程度いる。私は水中歩行と簡単な遊泳とを交互に15分ほどして約1時間で切り上げるのであるが、お年寄りの中には1時間ほど歩いている人もいます。水中歩行で思わぬ効果も

広告のページ・じねん通信復刊

伊都国じねん山荘 9月オープン
カルチャー簡宿のマネゴトを始めます

新住所

〒819-1305

福岡県糸島郡志摩町大字馬場字松ヶ元157-5
じねん山荘 糸乗 貞喜 (Tel. 092-327-2477)

●糸乗第4コーナーを廻る

「第4コーナーを廻ると書くと、競争をしているようですよ」と若い人から注意を受けましたが、私にとってはよたよたと一周してきて、やっとゴールが見えはじめた気分です。あとは黄泉の国なのか、お浄土なのかわかりわかりませんが、一步一步ゴールに近づくつもりです。

現在の商売に携わって32年になる。当初は、こんな益体(やくたい)もないことをやっていて、将来食っていけるとはとても思えなかった。しかし今から考えると、すばらしい仕事を紹介していただいたことになるし、多くのものを学び、多くの人々と知り合うことができた。そして有難いことに、それは

すごい成長産業だったのである。

●ホームストレッチで何をやるか

ネットワークが広がったのは、編集屋の時に少しと、大半はコンサルタント業以後である。期間が10倍なのだから当然のことではある。

アルパックの32年は、はじめが京都、ついで大阪事務所、最近の10~15年は九州アルパックであるが、その間に“じねんプラン”をやっていた時もある。

結局、関西はもとより、東京方面、各地の仕事をさせていただいたところなど、多くの知友を得た。そして九州にも少々の土地勘と知友を持たせていただいている。

こういう人間が、この後ゴールまで、どんな「行き方」をしたらいいのだろうか、この2~3年考えてきて、「カルチャー簡宿」にいきた。

●“カルチャー簡宿”って何だ

東京方面、関西方面、その他九州以外の人たちが、九州の文化(とくに旨い魚やおいしい野菜が食べられるという文化もある)にふれたい時のガイドセンターになるつもりである。宿泊もできる(30坪の家が別にあるので、2~3組ぐらいは泊まれる。1階はキッチンと洋間なので自炊でき、2階に3部屋ある)。

発見した。それは、やや冷たい水中を歩いていると精神的にリラックスし、意外と気になっていることのヒントが浮かんでくることである。市民プールでは2時間制限で260円となっており、健康維持のためにはなかなか効果的で安上がりのような気がする。

(山田 龍雄)



『おとなの遠足』

海鳥社

本屋で見かけたとき、今どき散歩というものはわざわざ出かけてするようなものなのか、と思いパラパラめくったのだが、載っている県内の散歩スポットの選定の仕方が、実にポイントを押さえていて「これは面

白そうだ」思い買ってみた。

本は全編でカラーがふんだんに使われ、口絵もかわいらしく、とても読みやすいだけでなく、歩きながら開いてもルートマップとして使える。

本書を買って、ガイドとして私自身が歩いてみた散歩道もあり、実際に使った結果、本書で紹介される散歩道に共通することは、

- ①脈やかさや華やかさがいい分、落ち着いて歩ける。せいぜい一人か二人で行くような場所である。
- ②歩いているとガイドに載っていないことに出くわしたりして、寄り道しながら主体的に歩き回ることになる。
- ③風にあたる、景色を眺める、わき水を飲む、一服つく、散歩帰りに一杯やる、など、距離よりも時間をかせぐ歩きができる。
- ④土地の催しごと、年に数度の自然現象、四季の景色など、季節限定の情報もある。
- ⑤どれだけ行ってもほとんどお金はかからない。などである。

一口で云うと自炊貸部屋だが、将来は食事も出せるかもしれない。九州の人々をお願いしたいのは、「九州にこんないいところ、知られざる文化があるよ」という情報をお寄せいただきたいということです。さらには、私の方から友人を振り向けたら、少々アドバイスをたくさん九州自慢をしていただきたい。

まあ、私の第4コーナー以後のよたよた歩きは、少々農作業と九州と日本各地の「繋ぎ屋」ということになるだろう。御鼻肩の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔語句の説明〕

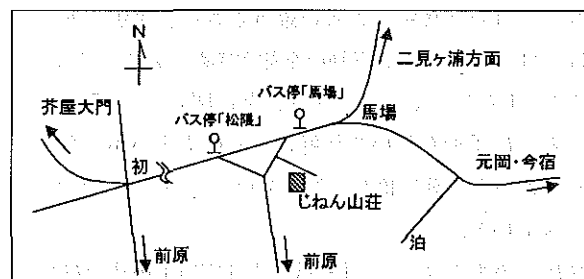
○伊都国(いとのくに): 3世紀に見える国名。「魏志倭人伝」によると、この国は3世紀初頭、現在の糸島郡前原町(注:現在は前原市になっている)周辺にあり、邪馬台国の女王卑弥呼に属し世襲の王がいたが、邪馬台国から派遣されたと思われる役人の官の爾岐(にき)・副の泄謨觚(せまこ)・柄渠觚(ひここ)もおかれていた。しかしこの国の特色はこの外に、魏の帯方郡から遣わされている郡使が常駐して、一方で卑弥呼が遣わした特別の役人である一大率もいて、周辺の国々を検察していたことである。この国は当時の外交内政の接点

に位置して、内外の使節は必ずここを通ることになっていた重要なところであった。

(「角川日本地名大辞典福岡県」より引用)

○じねん: 自然と書くと「しぜん」と読まれるので、いつも平ガナで書いている。糸乗の思いこみによると、しぜんは明治後期から使われだした概念で、人間が征服しようとする対象のこと。だと思っていたのですが、じねん・しぜんともに古くからあったようです。私の気分では、じねんは人間を含む天然・万物のことで、しぜんは人間を除いたものです。10年ほど前の「じねん通信」に少々書いているのでいずれ掲載します。

じねん山荘の場所



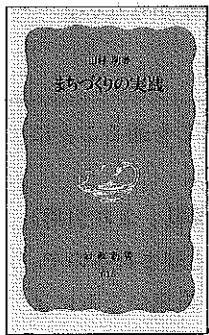
ちなみに私が行ったのは、このうちの新宮町の相島、有明海の大和干拓の周りである。

相島を訪れたときは、ちょうど年に一度の「千人参り」の日で、島北側の崖下にある穴観音にお参りする大勢のお年寄りにくっついて歩き、大潮の時にしか口を開けない洞穴に潜り込み、濛々たる線香の煙と明るい蠟燭の炎の中、ガイド本には載っていない酸欠と閉所への恐怖を味わうことになった。

大和干拓の時は、ノッペリした干潟を飽きもせずに眺めて時を過ごしたが、いい気分で帰り途に大牟田の街で入った飲み屋で、出てきたイソギンチャクやウミタケなど有明の海の珍味がことのほか美味しく、その結果、大いに深酒した。

蠟燭と線香に燻されたことといい、イソギンチャクでの深酒といい、私の場合、気分良く散歩すると何かしらのハプニングや余興が付いてまわるようだ。

(尾崎 正利)



「まぢづくりの実践」

岩波新書
田村 明 著

著書は、十年前に書かれた『まぢづくりの発想』の続編である。前著は「まぢづくり」という言葉を、市民的な用語として定着させた。あれから十年、全国各地で様々なまぢづくりが実践されており、本書では著者が直接関わったまぢづくりの実例を挙げながら、その必要性と手法がわかりやすく述べられている。

まず「まぢづくりの実践」とは、計画や施策をその通り正確に行う「実行」とは全然意味が違うという。「まぢづくり」の実践の基本には「理念」や「理想」があり、それが「現実」と食い違うときに、現実を理念に近づけるようにする行動の全体が実践であるようだ。

また、「まぢづくり」という言葉に関して、「言葉というものは手垢が付いて新鮮さを失いやすいが、まぢづくりという言葉は優しく育てていきたい言葉である」といっている。

私はこの本を読んで、「実践」と「実行」の違いはま

ぢづくりだけに限った話ではないと感じた。ひとつひとつの小さな仕事や作業でも、単に実行するだけでは“それだけ”の結果に過ぎない。理念や理想をもてば自ずと120%の結果が生まれるであろう、と思い、現在自分に言い聞かせている最中である。

小生も当社に入社してはや五ヶ月、まぢづくりの重要性や難しさが、少しずつではあるが理解できるようになってきた。今後、「まぢづくり」という言葉にどんどんと手垢を付けていきたいものである。

(井上 順之)

編集後記

■本文中で紹介している地域ゼミ「北九州あいの会」の代表である石井さんのお話は、教科書にはない現場から発せられる熱気が伝わってくるものであった。また、これから継続して事業を行っていくためにはマネージメントが如何に大切かを力説されていたのが印象的であった。

■最近、ケイタイ電話のありがたさを感じた出来事をひとつ。朝早く、ある町の会合に出かけるときに途中で車がパンクした。パンク修理できる技量がない私は、すぐにケイタイでJAFを呼び出し処理してもらい、何とか会合に間に合った。もしケイタイがなかったことを想像すると公衆電話を探しまわったり、汚れるのを覚悟で自分で処理する(できたかどうかわからないが)など、いたずらに時間をつぶしていたことと思う。(だ)

よかネット NO.41 1999. 9

(編集・発行)

福岡九州地域計画研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ5F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

(ネットワーク会社)

福岡地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6942-5732

名古屋事務所 TEL 052-265-2401

東京事務所 TEL 03-3226-9130